

## 細繊維度用蚕品種「あけぼの」の飼育管理技術

(蚕試 養蚕経営部)

### 1 背景とねらい

近年、絹を用いた洋装向けの新素材として、繭糸と合成繊維との交絡複合生糸である「ハイブリッド・シルク」が開発され、婦人用下着類に使われている。この「ハイブリッド・シルク」用繭糸を生産する細繊維度用蚕品種「あけぼの」は昭和62年3月に特殊用途用として指定された。この蚕品種の飼育取り扱い上の留意点については「細繊維度蚕品種の飼育特性と繭糸質」として、昭和62年度の「指導上の参考事項」に示したが、実際に現地の複数農家を対象に飼育実証を行った結果、繭生産集団内での生産繭を均質化するための飼育技術を把握できたので参考に供する。

### 2 技術内容

#### 1) 稚蚕飼育

桑育・人工飼料育とも現行の飼育標準表に準じて飼育してよいが、人工飼料育では、眠座乾燥の際、蚕児が蚕座から這い出す性質が強いので、這い出し防止剤を散布する。

#### 2) 壮蚕飼育

- (1) 4齢期は、飼育温度・蚕座面積・給桑量とも現行の飼育標準表に準じてよい。
- (2) 5齢期は普通蚕品種に比較し、経過日数はやや短く、桑葉の食下量も若干少ないので、給桑量は普通蚕品種より10%少なくし、蚕座面積を10~15%狭くして飼育し、目的の繭糸繊維度を保持する。また、高温は減蚕を増し、化蛹歩合を低下させるので、標準温度(20~24℃)を保持する。

#### 3) 上簇環境

吐糸宮繭中の温度は、普通蚕品種の場合より高めの24~25℃を目標とする。また、簇中の不良環境は解じょ率低下の原因になるので、排尿処理、通風換気を的確に行う。

#### 4) 蚕病予防

蚕期が重複する場合、病原汚染の著しい簇器の消毒にはビニールハウスを利用したホルマリンくん蒸法(昭和58年度指導上の参考事項)を導入する。

### 3 指導上の留意事項

本品種の繭糸は「ハイブリッド・シルク」などに利用されるため、特に繭糸繊維度の均一性が要求されるので、飼育標準表による飼育技術等の平準化と農家での技術水準向上に努める。

#### 4 試験成績概要

表1 細織度蚕品種「あけぼの」の5齡飼育標準表

養期	日致	日順	給桑量(1日当たり条桑量)	養座面積
春 蚕	8日6時間 (9日0時間)	1	30 (40) K <sub>g</sub>	15.5 (17.0) m <sup>2</sup>
		2	50 (60)	
		3	70 (80)	
		4	100 (100)	
		5	120 (110)	
		6	130 (120)	
		7	130 (130)	
		8	120 (120)	
		9	60 (90)	
		(10)	(50)	
		計 810 (900) K <sub>g</sub>	(新相割合を60%とした)	
初 秋 蚕	7日0時間 (7日0時間)	1	30 (40)	16.0 (18.0)
		2	50 (60)	
		3	60 (70)	
		4	90 (90)	
		5	110 (110)	
		6	110 (110)	
		7	90 (100)	
		8	20 (30)	
		計 550 (610)	(養量歩合を70%とした)	
晩 秋 蚕	8日3時間 (8日20時間)	1	30 (40)	16.0 (18.0)
		2	40 (50)	
		3	50 (55)	
		4	70 (65)	
		5	90 (70)	
		6	100 (80)	
		7	100 (85)	
		8	80 (85)	
		9	20 (70)	
		(10)	(30)	
		計 580 (630)	(養量歩合を70%とした)	

注) ( )内の数字は普通蚕品種の飼育標準